

全世代を巻き込む自治会活動



6班

猪爪新1区

浅野 裕弥

春日野区

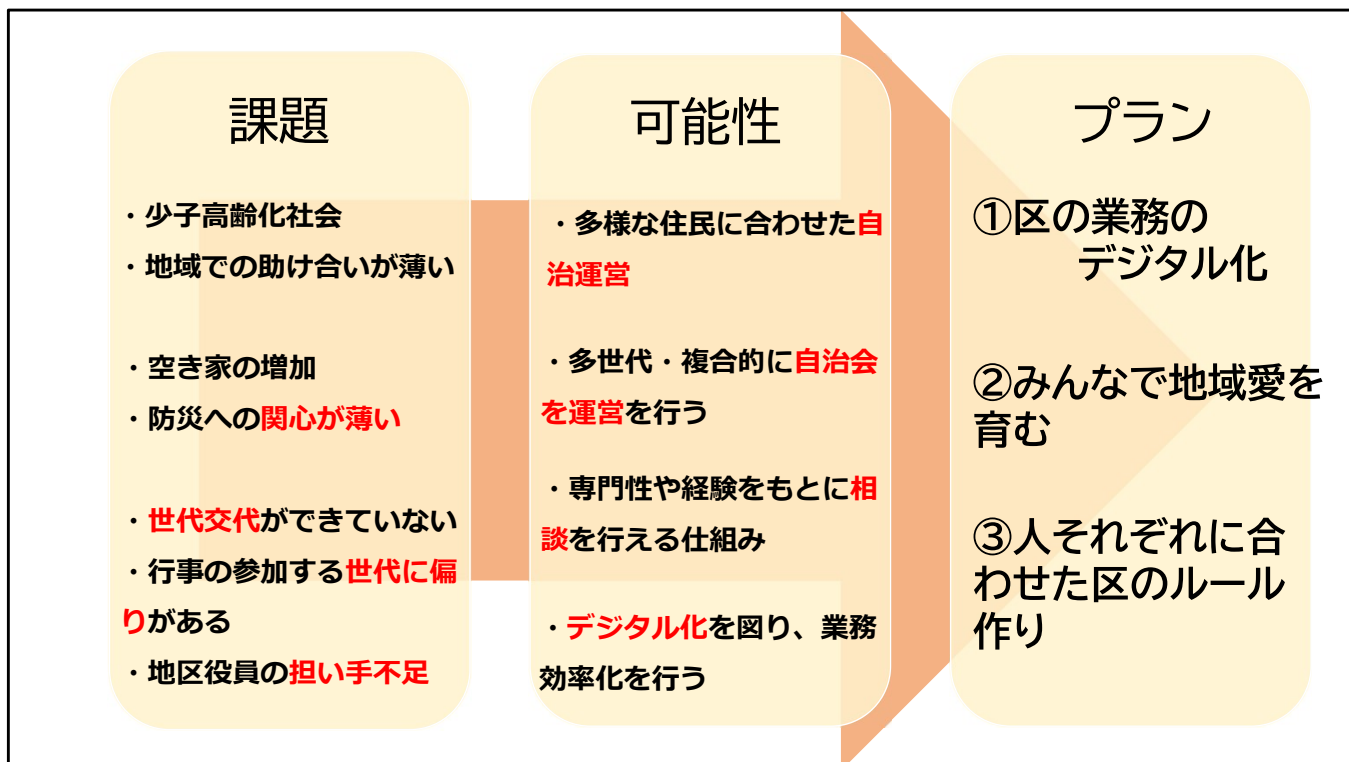
山本 芳彦

室町区

田中 伸幸

山口区

松川 信之



私たちは4回のワークショップを行い、話し合いの中で見えてきた地域の課題解決に向けたアクションプランを順序だててご説明いたします。

課題では、関心の薄さや世代間の問題、担い手不足があげられました。

可能性では、自治会運営やデジタル化について、自分たちの自治会でもできることがあるのでは話し合いの中で意見が出ました。

そしてそれらの課題と可能性を掛け合わせて三つのプランを考えました。

それでは順序に沿って説明させていただきます。

地域の問題・課題

福祉・人権・文化



地域の助け合い精神

防災・防犯・環境



防災訓練等の参加率の低さ

人材・担い手



- ・世代間交代ができない
- ・一体感が薄い

地域問題・課題についてお話しします。先ほども少しご説明しましたが、私たちの班では特に以下の三つの課題に焦点を絞りました。

まず一つ目は、福祉・人権・文化の視点から見た地域での助け合いの関係性が希薄になっていることです。例えば、高齢世代の増加に伴い、災害時の対応が不十分であることや、ゴミ出しや地区行事に参加できない高齢者や外国人の方々が多くいますが、なかなか地域で支え合っていくことが難しいことがあげられます。

次に、災害訓練に対する意識の低下です。地区で防災訓練を行っても、参加率が低く、要援護者の名簿も整備されていないため、手助けを行えるような若者世代との情報共有が不十分です。その結果、有事の際に助け出すことができない事態が生じています。このような意識の低下は、地域行事への参加率の低下とも関連しており、特に若者や子育て世代は仕事が忙しく、地域の活動に手が回らないことも一因と考えられます。

最後に、地区役員の担い手不足が挙げられます。世代間の交流が少ないため、世代交代のタイミングがつかめず、急な引継ぎが行われることでトラブルが発生することがあります。また、若年層が地区の行事に参加したいと思えるきっかけが少なく、参加年齢層に偏りが見られるため、地域全体の一体感が薄れてしまっています。

地域の可能性！

みんなで
できる！

①多様なルール作り ・運営



②多世代交流・ 世代間の交流



③区の業務の デジタル化

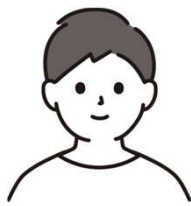


課題をいくつか挙げましたが、一方で地域内で実施可能なことや地域の魅力・可能性について考えました。

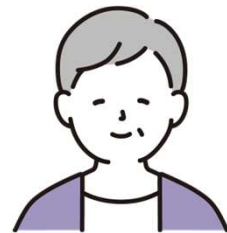
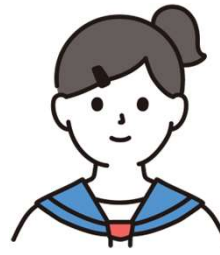
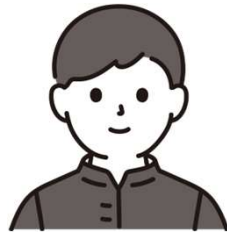
まず、地域の規約・ルール作りが自治会で行えるという点です。自治会運営は住民主体で行われるため、これまでの慣習やしきたりの中でなんとなく決まっていたことも、自治会での話し合いを通じて修正することが可能です。

次に、多世代交流や世代間の交流についてです。現時点では、なかなか交流ができておらず地域的な課題として挙げられますが、地域住民には未就学児から高齢者まで多様な属性の方々がいらっしゃいます。意外に多世代間での交流を行うことのハードルは低く、これは自治会の強みだと感じています。

最後に、区の業務のデジタル化についてです。インターネットやスマートフォンが普及し、若者や子育て世代のみならず、高齢者の中でもデジタル機器を利用する方が増えてきています。また、様々なアプリやサービスが存在するため、業務の効率化やスマート化を図ることが容易であると考えます。



次の世代の**地域愛**をみんなで育てていく！
〈地域共育〉



そんな課題と可能性がある地域で何ができるのか、何をしていくのかを考えた結果、「次の世代の**地域愛をみんなで育てていく**」ことを目標に掲げました。

これまでのワークショップの中で地域愛を育てていくには小さいころから地域との接点を持つことが大事だと考えています。
次に、そんな次の世代の地域愛を育てていくアクションプランをご紹介します。

アクションプラン①

『区の業務の一部デジタル化』

若者が参画するきっかけに！



小中学生による
スマホ講座



若者世代の
自治会運営参加



配布物や
出席確認の効率化

まず一つ目は区の業務の一部をデジタル化する事です。

- 1.地区内の小学生や中学生によるスマホ講座スマートフォンをうまく活用できる学生の協力を得て、スマホ講座を開催します。高齢者が孫に教えてもらう感覚で、スマホの活用方法や自治会サポの利用方法を学ぶことができます。
- 2.子育て世代もデジタルの運用に参加するデジタル操作に慣れている若者が自治会運営に参加することで、将来の自治会役員の担い手を確保することにつながります。
- 3.坂井市の電子回覧板「自治会サポ」の導入を目指す導入することで、会議や行事の案内を電子化し、印刷と配布の手間を省くことができます。電子化により、出欠確認や意見出しも簡単になり、自宅で内容を確認できるようになります。

このように、デジタル化を進めることで若者や高齢者が自治会運営に参画することが期待できます。

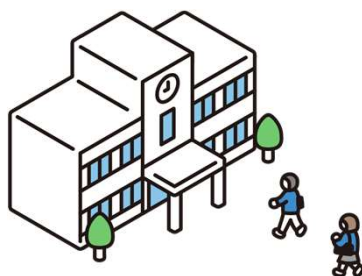
アクションプラン②

次世代を
主役に！

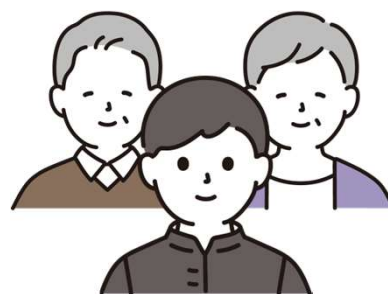
『みんなで子どもたちの地域愛を育む』



子どもたちが
楽しめるお祭り



学校と連携し
地域教育



地域の
高齢者と交流

『みんなで子どもたちの地域愛を育む』というテーマについて、地域愛を育む重要性と具体的な取り組みを見ていきましょう。

まず、大人になってから地域愛を育てようと思っても、日々の仕事や家庭の忙しさから、地域活動に参加する意欲が湧きにくい現状があります。大人になってからではなく子どものころから地域愛を持てるように下記の取り組みを考えました。

1. 地域に楽しく参加できるきっかけを作る

地域のお祭りを例に挙げましょう。未就学児から大学生までが楽しめるイベントを開催することで、子どもたちが地域活動に関心を持つきっかけを作ります。お祭りの企画や運営には地域住民が無理なく参加できるよう呼びかけ、コミュニティ全体で楽しい雰囲気を作り出します。

2. 学校との連携を仕掛ける

地域の歴史や自然について、学校との連携を図りながら、子どもたちが学べる機会を創出します。この際、学校任せにするのではなく、地域の人々も積極的に協力する姿勢が重要です。地域の知識を共有することで、子どもたちの学びが深まり、地域への愛着も育まれます。

3. 地域の高齢者と子どもたちの交流

高齢者は豊富な経験や知識を持っています。そこで、子どもたちが高齢者から学ぶ機会を設ける「地域探究」を通じて、知恵を活かす活動をします。また、地域

のサロン活動に子どもたちも参加し、高齢者と共に活動することで、世代を超えた交流を促進します。このように、経験を共有することで、地域全体が一体感を持つことができます。

これらの取り組みを通じて、子どもたちが地域愛を育む環境を整え、地域全体の結びつきを強めていくことが目指すことができます。

アクションプラン③

少数派の
参画も！

『自治会のルールを明確化する』



慣習の明確化

人に合わせたルール作り

地域独自のルールブックを作成するためには、まず地域の住民から意見を集め、現行の慣習や問題点を把握することが重要であり、アンケートや住民説明会を通じてルールを作成していきます。次に、収集した意見を基にルールを明文化し、具体的な文例や事例を用いてそれぞれのルールの重要性を説明します。さらに、作成したルールブックは固定的なものせず、定期的に住民と意見を交換しながら見直す機会を設けて柔軟性を保つことが求められます。特にゴミ出しのルール作りにおいては、高齢者や障がい者、外国からの住民のニーズを把握し、ルールを柔軟に設定することで参加しやすい環境を整え、情報を多言語で提供したり視覚的な資料を作成することが効果的です。最終的に、これらの取り組みを通じて地域住民が互いに理解し、協力し合う環境を構築することができ、住民の積極的な参加とコミュニケーションの重要性を意識することが大切です。

自治会WSに参加して感じたこと

春日野区 山本 芳彦

考え方に変化はありました。自分自身が「区について情熱を持って取り組む」。何についてか？区内の小さな問題を一つ一つ自分ごととして解決していく必要があることに改めて思えた。

室町区 田中 伸行

室町区も例にもれず高齢化が進み、イベントを行うにも役員選出にしても自治会としての体をなさない状況となってきた。どの国も同じ悩みをもたれており、その解決案をたくさんいただきました。

自治会WSに参加して感じたこと

猪爪新1区 浅野 裕弥

参加者の皆さん同じ様な課題を持っていることがわかり、お話を共感を持って聞くことができました。

山口区 松川 信之

自分の区だけでなく、どの区でもいろんな課題を抱えていることがわかりました。一方で、その課題に対しいろんな工夫や考えで対応していることもわかりました。地域みんなが笑顔で暮らしていくために誰かがやってくれるだろうではなく、自分がまず楽しんで地域の一員としてみんなに支えてもらっていることに感謝し、今後も自治会活動に取り組んでいきたいと思いました。